成人向け
R18

深海棲艦化艦娘レポート

prezented by 774house

774

世の平和の為に戦う、人の姿をした軍艦達が居た。

少女の姿をしたそれらを、人は艦娘と呼んだ。

彼女達を指揮する提督は、優秀であったがまだ幼く、無謀な進撃を強いる上官の命令に背く事は出来なかった。

提督の努力も空しく、
彼女達は一人、また一人と
紺碧の海に消えていった。

だがそれで終りではなかった。

彼女たちは姿を変え、提督の
前に現れた…。

「加賀さん、行きましょう。提督、一航戦の戦いご覧に入れます！」
「提督、加賀さん、お久シぶりデす。アハハッ！私、装備換装しマした！」
深海棲艦
akagi
赤城
赤城型一番艦
akagi
赤城

赤城の変わり果てた姿に動揺を隠せない加賀。轟沈した筈の赤城と再び会えた事は何よりも嬉しいが、その変わり果てた姿は、加賀の想像を遥かに超えるものだった。

「あ、赤城さん…？そ、そんな…」

「アハっ！加賀さ～ん…ドう？私の新しい艤装……クスクス…すっゴいイヤラシイでしょう…？コウやって…オナニーしてイキながら戦うノ」

「イクわヨ、加賀さん！見セてあゲルわ、私の一航戦オナニー！」

加賀型一番艦
kaga
加賀

「五航戦の子なんかと一緒にしないで」

赤城「加賀さん、そろそろお昼にしましょうか」

加賀「ええ、そうね」

訓練を終え、何気ない雑談を交わす赤城と加賀。

態度にこそ出さないが、加賀にとっては掛け替えのない時間であった。

深海棲艦 kaga 加賀

赤城に撃沈され、揃って深海棲艦となった加賀。

鏡にはとんでもない姿の赤城と自分の姿が映っている。

全身を包む下品な網タイツ。根本を縛り上げ、風船のようにパンパンに膨らんだ、驚く程大きな乳房。

変態の極みとも言えるこの姿で、赤城と一緒にこれからかつての仲間達を相手に戦うのかと思うと、味わった事の無い暗い高揚感が湧き上がってくるのだった。

「あはっ！これが一航戦の本当の姿！ああ…胸が疼くわ…」

戦闘から帰還後、補給をする赤城と加賀。

深海棲艦化した艦娘は、人間の精液を燃料にする。

初めは戸惑っていた加賀も、精液の味を憶え、体中に精液を塗りたくりながら下品に喉を鳴らす。

赤城は、好物のボーキサイトザーメン和えを食べながら、加賀と一緒にザーメンまみれになる事に、かつてない幸福感を覚えていた。

赤城が包茎ペニスを剥くと、凄まじい腐臭が辺りに漂った。

赤城の好物チンカスだ

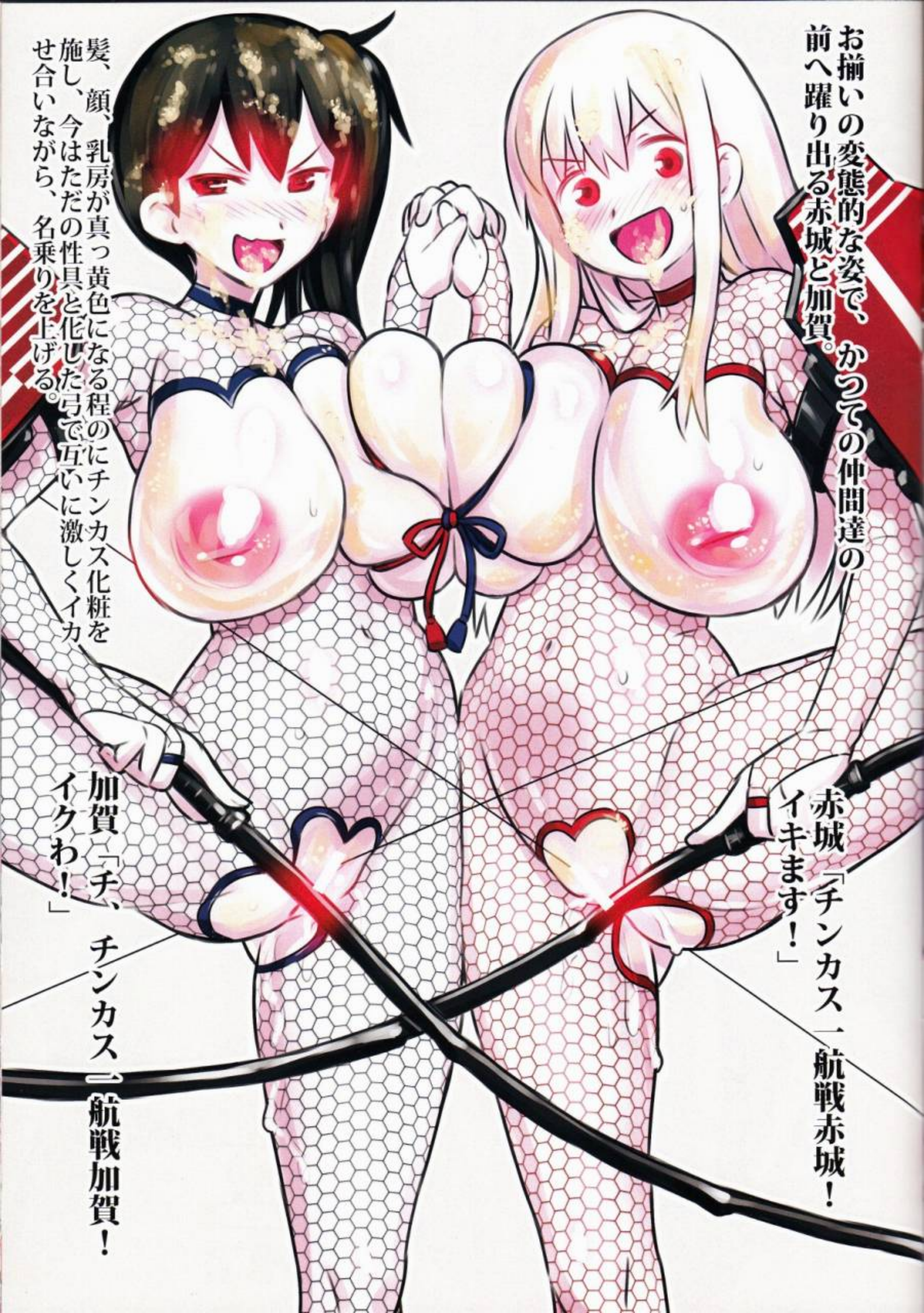
「ほら加賀さん、一口どうぞ」

凄まじい臭気に、深海棲艦化したばかりの加賀は流石に吐き気を催す。

「ふふふ…こうやってよーく塗り込んで…」

赤城により、丹念にチンカス化粧を施される加賀。

赤城の手で、自分の体が汚物と化すのだと思うと体の奥底から暗い喜びが湧き出して来るようだった。


お揃いの変態的な姿で、かつての仲間達の前へ躍り出る赤城と加賀。
髪、顔、乳房が真っ黄色になる程のにチンカス化粧を施し、今はただの性具と化した弓で互いに激しくイカせ合いながら、名乗りを上げる。
赤城「チンカス一航戦赤城！イキます！」
加賀「チ、チンカス二航戦加賀！イクわ！」

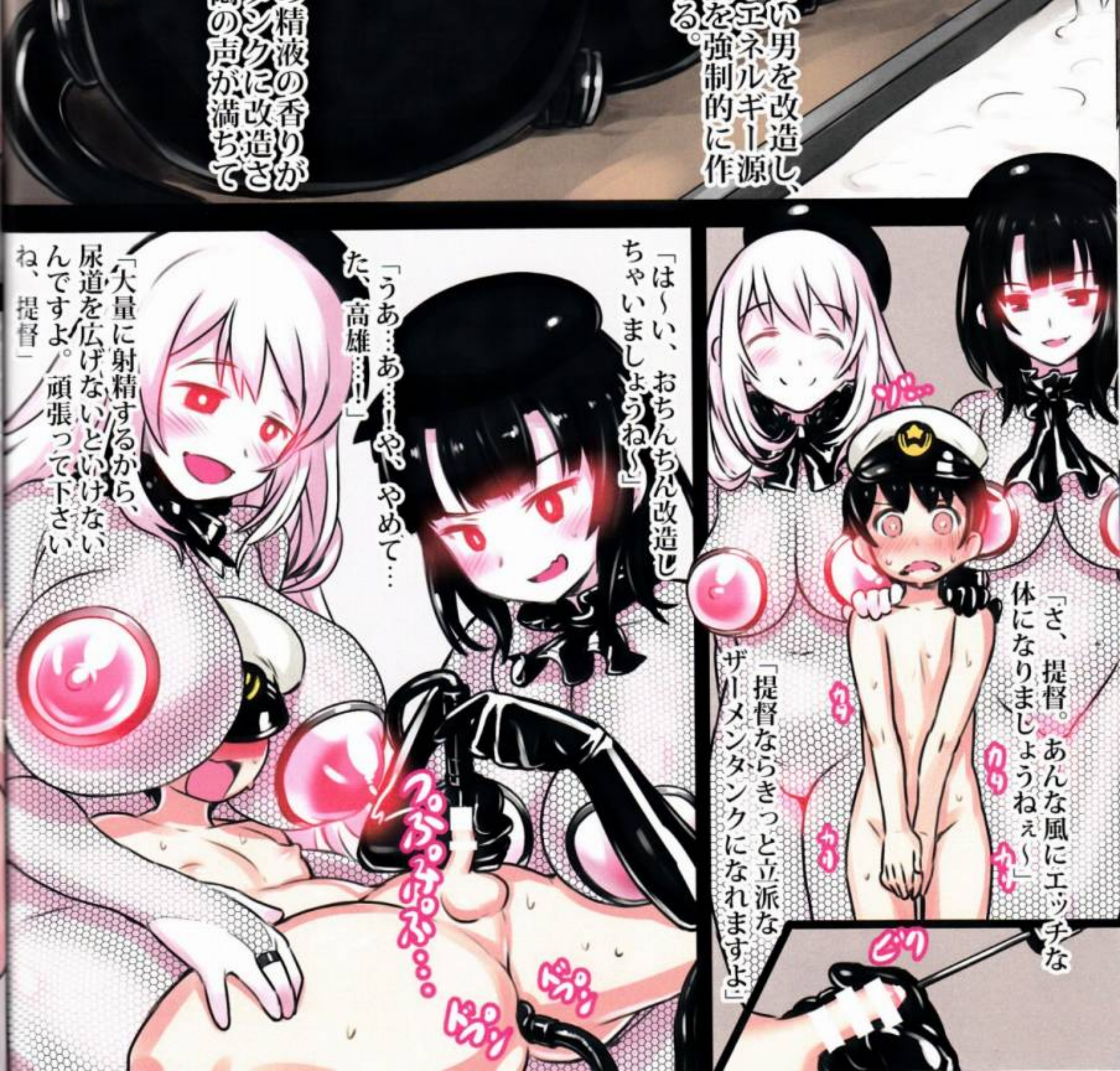
高雄型一番艦
takao
高雄
「提督　よく頑張りましたね。ご褒美にぎゅ～ってしてあげますね～。あはは　照れちゃって…提督　かわいいですよ～ほらほら　おっぱいぎゅ～」
「提督、お疲れさまです。素晴らしい指揮でした。提督の許で戦えて、私光栄です。」
「でも、無理はしないで下さいね？提督が大人になるまで、私達が守って差し上げますから」
高雄型二番艦
atago
愛宕

深海棲艦
takao
高雄
「提督　大丈夫ですよ～フフフ…ホら、コッチに来テ…提督ノ大スキな愛宕のオッパいですヨ～クスクス…あらあら？どうシたンですか？ソんな怖イ顔シて？クスクスそんナ顔してルと…オ仕置キしちゃイまスよぉ…」
「提督ぅ…もう艦隊の指揮なんてシナくていいンですヨぉ？私タチガ…クスクス…いやラしぃ体に…改造してアゲまスカらネェ？」
深海棲艦
atago
愛宕

深海棲艦用精液製造工場

ここでは若い男を改造し、深海棲艦のエネルギー源である精液を強制的に作り出している。

辺りには咽る程の精液の香りが立ち込め、精液タンクに改造された少年達の苦悶の声が満ちていた。



特殊な器具により、提督の尿道は少しずつ拡張されていった。

並行して、尿道から注入する薬により、睾丸を徐々に肥大化させていく

『あはは…提督のおちんちん…凄い事になっちゃってますよぉ…』

『大丈夫ですよ提督。安心して私達に任せて下さい』

徐々に精液タンクに改造されつつも、薬の影響で意識が朦朧とし、逃げる事もままならない提督。

数週間後

「ほら提督。どうですか？これが提督の新しいおちんちんとキンタマですよぉ」

篭球のように肥大化した睾丸、大人の親指がすっぽり入ってしまいそうな尿道の穴。提督には、これが自分の身体だとは俄かに信じられなかった。

『さあ提督～。ここが提督の新しいお家ですよぉ～クスクス』

『はい、お帽子脱ギましょウね』

「うあぁ！」

「いキますよ～ん～チょっときついかもしれないけど…根本まデちゃんと咥エこみマしょうね」

「は～い、いキますよ～提督の初めテの射精です。頑張ってイキまくりマしょうね～」

『ふっ～くっ～！』

肛門から奥深くまで挿入されたパイプを伝って、熱い液体が腹の中へ流れ込んで来た。

ぶら下がった睾丸の中でマグマのようなものが、ぐつぐつと煮えたぎっているような感覚。

このマグマが吹き出たら…きっと自分は人間では無くなってしまうのだろう…。少年提督は、せめてもの抵抗で、下腹部に力を込めた。

「ほら提督っ！どウですか？おちンちんはこうヤって使うんでスよ！」

「ほらほらぁ！」

「クスクスクス ホラ…ガンバッテ…」

既に限界寸前の提督が見上げた愛宕の顔は暗く翳り、悪魔のように見えた。

幼い提督は、かつて憧れた愛宕に心の底から恐怖し、初めての射精をした。

「提督、精通オめでとうございマす」

「これデ提督は一生ザーメン製造機でスよ」

「提督、お疲れさまです。
今日はいい食材が入ってるんですよ。ふふ…提督の
お口に合うと良いのですが」
鳳翔型
一番艦
hosho
鳳翔
お食事にしましょうか？
「提督…私…もウ一度会いタい
って…ズっと思っテたんデすよ…
あぁ…提督……に、逃げ…て…
……ふふ…ククク…アハハ！
kモう駄目…抑エらレない…
提督…逃がしマセんヨぉ…」
深海棲艦
hosho
鳳翔

甲斐甲斐しく元提督の世話をする鳳翔

「提督…ごめンなさイ…今の私にハ…こんナ事しカ出来なくテ…」

はぁ

うぅ

はぁ

なで

なで

精液タンクと化した人間は、深海棲艦の体液のみを与えられて生きる事になるが、鳳翔は艦娘だった頃の習慣が抜けず、こっそり造った料理を時々与えている。

あーん

「あんこうのつみレです…ごメンなさい…深海は食材が乏しくて、こんなものしか用意できなくて…」

毎日酷使する提督の睾丸をやさしくマッサージしてあげる鳳翔

「どうデすカ提督？気持チイいでスか？」

ごゅむ

ごゅむ

ぴっ

ぴゅん

「提督…ごめンなさい…ちょっトだケ…補給サセて下さイ…」

ぱち

ぱち

ぱち

ぷるん

ぷるん

世話を続けるうちに空腹を覚え、提督の精液が欲しくなってしまう鳳翔

「ごくっ……」

ぱち

ぷるん

ぴく

ちゅぷ…

『提督…どうです…？気持ちいいですか』

まだ性的に幼い提督に合わせ、ゆっくりとあやすように腰を揺する鳳翔

『あはっ！…やっぱり…提督のおちんちん…素敵ですよ』

提督を思いやっているつもりだったが、深海棲艦の淫らな本能の影響は徐々に鳳翔を侵食していった。

『ん……ていトク…そノ泣きソうな顔…あは…おイしい…ほらテいとく～？どうでスか？ん？ほラ！』

『アハハ！アハハ！ホラテイトク！ドウデスカ！ホラ！』

『アハ！アハ！テイトク！ザーメンダシテクダサイ！アハ！マダ！アハ！マダユルシマセンヨ！テイトク！』

ビクッ ビチャ ビチャ ビチャ

精通　加賀の場合

「赤城さんの手ヲ借りルまでモ
ありマせん」

「提督の精液タンク化の仕上ゲ…
精通ハ私がヤリます」

タポ
タポ
タポ
タポ

「ほラ提督、いキマすよ」

「一航戦おっパい、
出撃しマスよ」

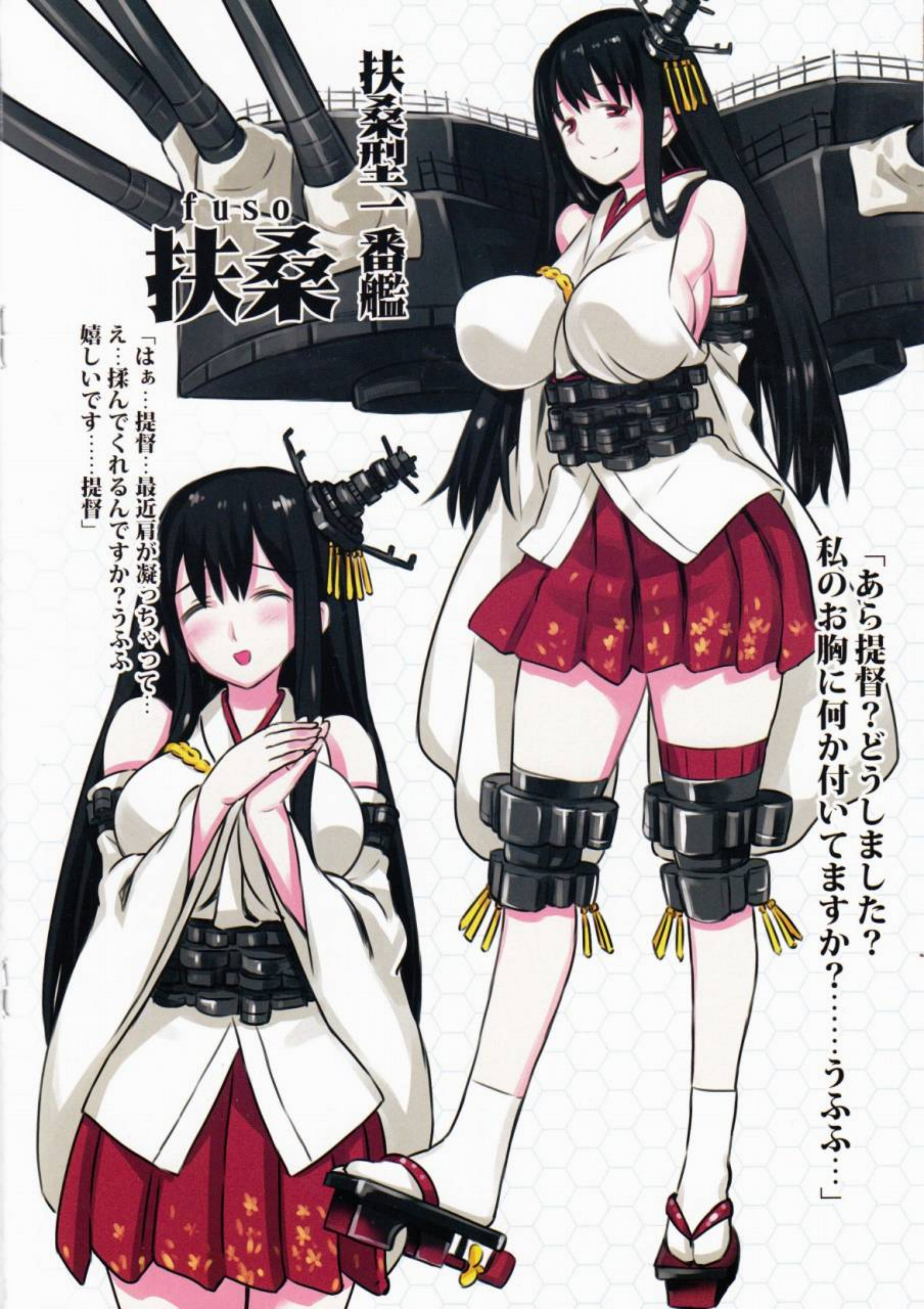
ムニュ

ズボッ

「ホラ！どうデすカ！
一航戦の！急降下
爆撃ノ味は！」

「あハ！出タ出た！
提督、精液タンク化
おめデとうゴザいマす」

ビュー
ビュッ
ビュッ
ビュッ


扶桑型一番艦
fuso
扶桑
「あら提督？どうしました？
私のお胸に何か付いてますか？……うふふ…」
「はぁ…提督…最近肩が凝っちゃって…
え…揉んでくれるんですか？うふふ
嬉しいです……提督」

深海棲艦
fuso
扶桑

「提督～……お久しぶりです……
あらあら…どうしたんですか…顔真っ赤に
しちゃって……クスクス私のおっぱい、気に
なるんですか？クスクス。知ってましたよ。
いつも私のおっぱい見ていた事…。
おいいんですよ。ほらぁ…もっと近くに来て…
っぱい触って下さい…ほら…」

精通　扶桑の場合

『提督はまだ精通がお済みではありませんよね…？』

『でしたら私がこのおっぱいで…くす…提督の初めての射精を導いて差し上げます…』

のし…

『大丈夫ですよぉ…くすぐす怖くありませんから』

『ほらおっぱいの中あたたかいでしょう？ふふふ…じゃあちょっとだけ強くしましょうか…』

ぎゅ ぅ ぅ

「あはっ！どうです？こうやってすり潰すように……ふふ」

「石臼の中に入ってるみたいでしょう…？ふふふだめでスよ。そんな風に泣き叫んデも止めませんよ』

ミシ ミシ ミシ ミシ ミシ

「ほら、イキマすか？うふふ…出た出た！提督、精通おめでとうございます」

ビュッ

メリ メリ メリ メリ メリ メリ

「うふ…このまま本当にすり潰しちゃおうしら…クス』

扶桑姉妹のペットとして、海底洞窟内を散歩させられる提督。
全裸に剥かれ、かつては自分の指揮の下で戦っていた美しい姉妹に、犬のように引き回される事に、徐々に秘められたマゾ気質が目覚めつつあった。

『戦艦日向、出る！」
伊勢型
二番艦
hyuga
日向
「ははっ！どウした？少年？そんナに
怯えた顔をして…？怖がる事ハ無いさ…
フフ…君はこれから…海ノ底で…
ずーっトきもちいい事をしながら
生きてイくんだ…」
少年兵や若い提督達を浚い、精液工場
へ運ぶ日向。
朴訥な武士のような気高さは既に失われ
淫らな欲望のみが彼女を突き動かして
いた。
深海棲艦
hyuga
日向

伊勢『ひゅ、日向！』
日向『む！い、伊勢か！』
深海棲艦の基地に単身乗り込んだ伊勢と対面する日向。

ギュッ

唐突な再会に、僅かに残った理性が、忘れていた羞恥心を呼び戻す。

「うっ……むっ……ん……フふ……ど、どうシた？伊勢？」

ブボッ ブボッ ブボッ

だがそれは一瞬の事だった。
淫らな日向は、伊勢に見せ付けるように四つんばいで激しく腰を振る。

『んっ！ふっ！いイな、お前に見せ付けながラの交尾というのモ……っふフっ！』

「ひゅ、日向……！せめて私が……引導を渡してあげるわ……」

『はハっ！互いニ艤装無しダ……ほら、かかッて来い……』

ヒラ ブルン

牛のような乳房を振り乱し、渾身の迎え腰をちんぽに叩きつけながら、日向は味わった事の無い背徳感に酔いしれていた。

ブルン ビク

最上型
三番艦
suzuya
鈴谷
kumano
熊野
最上型
四番艦
「鈴谷さん、参りますわよ。私達のコンビネーション、見せて差し上げましょう」
「おっしゃあ！熊野、いっくよー！提督！ウチらの活躍、期待しててよね！」
性格は異なったが馬が合い、常に行動を共にしていた鈴谷と熊野。
「うわっ！何これ！ぬめぬめする！キモッ！」

kumano
熊野
深海棲艦

「チーッス！提督～！どう？凄いっしょ！
ウチら合体しちゃったんだ～
イキまくりでマジサイコーだし！」

『提督…どうです？私達の新しい艤装…
ちょ、ちょっと下品かしら…クスクス』

同時に撃沈した鈴谷と熊野は二体で一つの
深海棲艦と化した。
互いを絶頂に導きながらの戦闘は、二人に
とってかつてない興奮とスリルを楽しめる
最高の遊びとなった。

suzuya
鈴谷
深海棲艦

『キモいですわ！』

深海棲艦の装備開発風景

自分の装備は自分で開発するのが深海棲艦のやり方だ。
鈴谷と熊野は、新しい装備を入手する為、装備開発を行う事にした。

まだ一度も使った事の無い子宮に、生体開発資材を植えつけられる二人。

「うわ…は、入ってりぐるし…」

普段はテンションの高い鈴谷も、不安があるのか口数が少なめだ。

ねちっこい姉妹艦レズで、鈴谷の気を紛らわせてあげる熊野。

「んっちゅっ！んっどうしました？怖いんですか？」

『ちゅぶっ！んっ！んんっ！べ、別になんとも無いし！』

数週間後、子宮内の開発資材は順調に育ち、妊婦のような腹になる二人。

「うおっ！う、動いてる動いてる！めっちゃ動いてるし！」

さらに数日後、破水し遂に開発出産の時を迎える。

「あっ！あはっ！凄っ！
これ凄いですわっ！鈴谷さんっ！
これ、内側から子宮がめくれ
あがって…！」
「ひ～！ふ～！ひ～！ふ～！
は、話しかけんなって！
ひ、ひ～ふ～！
ひ～！ふ～！」
遂に装備品の開発に成功した鈴谷と熊野
派手に母乳と潮を撒き散らしながら
深海棲艦用の艦載機をひり出す二人。
「鈴谷さん！やりましたよ！
艦載機ですわ！」
「ひ、ひ～！ふ～！ひ～！ふ～！」
パシャ
ジュパパパ
ブルン
プシュ
ビィ
ブリュ

長良型三番艦
natori
名取

「て、提督さん、出撃ですか…？だ、大丈夫です！あ、足手まといにはならないよう頑張ります。」

「あ…提督さん、この間お借りした御本、とても面白かったです。いつか戦いが終わったら、こんな本を毎日読んでいたいなって…」

「提督ぅ！ひ・さ・シ・ぶ・り！
アぁん？しケタ顔してンじゃネーぞ？
おら、さっサト服脱ゲや！」

深海棲艦になると同時に、俄かには信じ難い程の淫乱ビッチと化した名取。
粗暴な態度、交尾の事しか頭に無いような淫乱振りは、嘗ての名取を知る者には、到底同一艦とは信じられなかった。

「あ～ん？提督ぅ～てメーの短小包茎ちンポなんテお呼びジャねエんだヨ！おらっ！私がこイつでてめーのケツマンコ掘ってヤるカらよ！さっさとケツ出せや！」

深海棲艦 natori 名取

最上型
一番艦
mogam
最上
「最上、出撃するよ！うん？どうしたんだい
提督？あはは、大丈夫だよ。必ず帰ってくる
からさ。指揮宜しく頼むよ！」
『あはっ！どウ提督？ボクに似合ってルかイ？
アハハ！ビックリしタだろう？これカラもッと
凄オオいノ見せテあゲルヨ』
深海棲艦
mogami
最上

「ほらお兄さん達、気合入れてザーメン出してくれよ。ボクを満足させられないと…アハッ！搾り殺シちゃウゾォ…？アハハハ！」

深海棲艦化した艦娘は、総じて性欲が増し、淫乱化するが、中でも最上の淫乱振りは郡を抜いていた。

深海の基地にいる間は、片時もちんぽを離さず、肥大化した乳房を振り乱しながら、大人から小さな子供まで、あらゆるちんぽを味わい続ける最上。

淫乱なメスの身体と、元々のボーイッシュな容姿が合わさり、妖しい魅力を放っていた。

「んっンブっ！んっ！ぷはーっ！イイヨ君のザーメン！粘っこクテ苦っがくてサイコーだ！おっと提督。放ったらかしトいてゴメンよ！あはっ！これからタっプリ搾ってやルカラさ！」

深海棲艦
haguro
羽黒

妙高型四番艦
haguro
羽黒

「あ、あの…司令官さん…本当に私なんかでいいんでしょうか…？いえ…あの……
…が、がんばりますっ！」

『キャハハハハ！あ！司令官さーん！クスクスクス！ねぇねぇ、私とキモチいイ事しませんカ～ぁ？キャハッ！
あれぇ…？ドウして逃ゲるんでスかぁ……？
クスクスクス鬼ごっコですかぁ～？キャハッ！よーし追いカケちゃいますねぇ～？」

羽黒が轟沈して数週間後
鎮守府に1本のビデオテープが
送られて来た。

ビデオには、沈んだ
筈の羽黒が、変わり
果てた姿で痴態を晒
していた。

『あはっ！い、イエーイ！
司令官さーん！お姉ちゃん達～？
み、見てル～？心配掛けテごめン
ね～。私は元気ダよー！』

ポ…

『これからそっちにイクけど…
その前に私のヘ、ヘンタイアクメ姿
いっぱイ見て貰いタクって…
ビデオ送っちゃイました！』

『おっ！おおおおおん！』

あの大人しかった羽黒が発し
ているとは到底思えない、野
太い獣の様な喘ぎ声をあげ、
正に獣の様に知性の欠片も感
じられない下品な交尾をする
羽黒。

戦いで沈む事は覚悟の上だったが、
尊厳を踏みにじるかのような変貌振りに
取り乱し、涙する姉達。

それでも姉達は、かつての羽黒の
面影を探そうと、歯を食いしばっ
てビデオを見続けた。

バチッ
バチッ
バチッ
バチッ
ビッ
ビッ
ビッ

深海棲艦化 艦娘の補給風景

mogami
最上

takao
高雄

「あはっ！君、いいザーメンしてるね。ボクもうお腹パンパンだけど、まだまだ全然足りないよ」

「あらあら、そのタンク随分マゾっ気が強いのね。明日にも解体しようかと思ってたけど、まだ使えそうね」

「ほら、ほら、ザーメンタンクさん！のんびりしてると、解体されちゃい

ぶっ
ぶっ
ぶっ
ぶっ
ぶっ
ぶっ
ぶっ
ぶっ

fuso
扶桑
atago
愛宕
まずはお!ほらほんほんほんほん!
ほんほんほんほほん!
あらあら、ちょっと元気になりましたね」
「こっちの子も…ちょっと出が悪くなってるみたいねぇ…クスクス…ちょーっと痛い痛いしましょうか…?」
ぶっ
ぶっ
ぶっ
ぶっ
ぶっ
ぶっ
ぶっ

深海棲艦化した艦娘の入渠風景

海底洞窟内に造られた深海棲艦用のドック。

若い人間の男から搾り取った新鮮な精液風呂で戦闘での傷を癒し疲労を回復させる艦娘達。

風呂の中央には、精液製造機に改造された提督が、噴水のように精液を撒き散らしながらうかんでいる。

加賀

『提督、私あと十時間入渠しますから頑張ってイキ続けて下さいね』

赤城

『ああ！提督のザーメンおいしいです！ずっと私達の精液製造機でいて下さい！』

愛宕

ビュルルッ
ビュ
ビュ
ビュ

奥付

誌名
深海棲艦化艦娘レポート

発行
774ハウス

作者
774

印刷
サングループ

発行日
2013年12月31日

連絡先
nanas774@hotmail.co.jp

twitter
774nanash

あとがきを書くのは初めてですね。どうも、774です。艦これラクガキ描いていたらもっと描きたい欲がむくむくと沸いてきてしまい、急遽同人誌を出す事にしました。煽りを食らったオリジナル本とまどマギマミさん本はそのうち出しますので…。

しかし艦これはまだ他にも描きたい艦がいろいろ居るので、ひょっとしたら同じようなコンセプトでもう一冊出すかもしれません。駆逐艦勢は今回一人も描けませんでしたし。

あとそろそろオリジナル本の穂乃火の続きを描きたくなってきたし、ツクールで簡単なエロスRPGも作りたいしで、なんか時間がいくらあっても足りない感じです。

また何処かでお会いできれば。

774

かつて命を賭けて仕えた提督が、無残にも精液タンクと化し、目も眩む射精の絶頂に悶絶し続ける姿をおかずにオナニーをするのが、深海棲艦化した艦娘達の一番の娯楽である。

１８歳未満の購読を禁止します。
無断転載はやめてください。